

東京五輪は異常事態のなかで開かれる。医師の立場としては選手を応援する気持ちよりも、コロナ禍での開催によって感染爆発につ

# コロナ禍の五輪を語る

— 中 —

ながることへの懸念の方が大きい。

現在の感染状況は元をたどると、昨年初めからの政府の対応の悪さに起因して

## 山梨大学長 島田 真路さん

# 感染爆発懸念大きい

いると考えている。当初、政府は中国武漢市で新型コロナウイルスによる肺炎が流行し

とされている。当初、政府は中国武漢市で新型コロナウイルスによる肺炎が流行し

とされている。当初、政府は中国武漢市で新型コロナウイルスによる肺炎が流行し

### 医療崩壊も

とされている。当初、政府は中国武漢市で新型コロナウイルスによる肺炎が流行し

とされている。当初、政府は中国武漢市で新型コロナウイルスによる肺炎が流行し

とされている。当初、政府は中国武漢市で新型コロナウイルスによる肺炎が流行し

とされている。当初、政府は中国武漢市で新型コロナウイルスによる肺炎が流行し

が十分にある。人ごとでは職域接種が進んでいる。ただ、国民全体の割合を見る

6都道県の会場は無観客となるが、国民の安全を優先するならば当然の措置だ。

それでも、変異株も次から次へと出てきた危険な現状で、五輪を開催することは

「賭け」と言える。無観客にしたところで、選手や関係者らの動きをなくすこと

はできない。事前合宿で来訪する海外選手との接触リスクも懸念される。本来なら選手と交流するいい機会

になっただけだが、対面は避けなくてはならない。

「賭け」の結末は誰にも予測できない。結果として感染拡大はなく、日本の選手が活躍して、成功の評価

が下される可能性もある。いずれにせよ、五輪史上で類を見ない、特殊な位置づけの大会になる。どのような意義があったかは、大会後に国民一人一人が考えるべきだろう。

種が最も有効な手段で、県内でも大学や企業、団体の

特殊な大会

〈取材・構成 宇賀神将樹〉



「五輪開催は感染爆発の懸念があり、賭けだ」と語る島田真路学長

山梨大甲府キャンパス

しまだ・しんじさん 1952年4月8日、京都府出身。東京大医学部卒。米国立衛生研究所留学などを経て、86年に山梨医科大（現山梨大）皮膚科学教室に助教授として着任。東京大医学部付属病院分院皮膚科科長、助教授を経て、95年に山梨医科大教授。山梨大医学部付属病院院長を経て15年から現職。中高大学時代は野球部に所属した。69歳。

五輪は選手たちからしてみれば、夢の舞台だろう。一国民としては当然、日本の選手の活躍を願う。しかし、感染拡大で大変な状況を考えて、五輪開催の意義を見いだすのは難しい。医師としては引いた気持ちで経過を注視している。開催によって東京都を中心に感染爆発が起これば、山梨も、大阪府や沖縄県のような医療崩壊につながる恐れ

種が最も有効な手段で、県内でも大学や企業、団体の

特殊な大会